

サイコパシーの外見は魅力的か？

法政大学大学院人文科学研究科 喜入 暁 (s.kiire0518@gmail.com)

1. サイコパシー傾向

感情的・対人的側面：共感性の欠如，罪悪感の欠如，自己中心性

反社会行動・生活様式：長期的展望の欠如，犯罪/非行歴

冷淡さ，対人操作性，衝動性，反社会傾向を持つパーソナリティ (Hare & Newmann, 2005; 大隅・大平, 2010)

1.1. 一次サイコパシー (Primary Psychopathy: PP)

- 冷淡さ，対人操作性など，気質的な側面 (情緒的問題側面)
- 反社会的パーソナリティとの大きな違い

1.2. 二次サイコパシー (Secondary Psychopathy: SP)

- 衝動性，反社会傾向など，行動的な側面 (衝動的行動の側面)

1.3. サイコパシー傾向の恋愛における行動傾向

- 表面的魅力が高い (Holtzman & Strube, 2013)
- ルダスの恋愛スタイル (Jonason & Kavanagh, 2010)
- 性的パートナー数が多い (Visser et al., 2010)
- 複数の相手と性関係 (Jonason et al., 2010)
- 短期配偶戦略 (Fulton et al., 2010)

サイコパシーの短期配偶戦略は，進化的な視点から有利な戦略の一つ (Furnham, et al., 2013)

むしろ，サイコパシーは短期配偶戦略のために進化した特性 (Jonason et al., 2009)

2. 短期配偶戦略

短期配偶：身体だけの関係，遊びの恋愛，浮気など，一時的な性関係を持つような関係

⇔長期的配偶：結婚，真剣な交際など，性関係だけでなく将来協力して生活をするような関係

2.1. 男性における配偶

- 短期配偶志向は，遺伝子を遺すという観点から，基本的には男性において有利 (Buss & Schmitt, 1993; Jonason et al., 2009)
 - 配偶子 (精子) の生成にコストはかからない
 - 妊娠期間などなく，いつでも生殖行動可能
- ⇒ それならできるだけ多くの異性と性関係を持ち，できるだけ多く子供を作ることができればそれだけ自身の遺伝子が残る可能性は高まる！

2.2. 女性における配偶

- 短期配偶志向は、遺伝子を遺すという観点から、基本的には有利ではない (Buss & Schmitt, 1993; Jonason et al., 2009)
 - 配偶子 (卵子) の生成にコストがかかる
 - 妊娠期間や育児期間など、生殖行動がとれない期間が存在する
 - 子供が生まれた後には、子供に投資 (食糧や防衛など) をしてくれる男性が必要
- ⇒ むやみやたらに性関係を持つのではなく、厳選して子供ができるだけ生き残る可能性が高くなるように男性を選ぶ必要がある!

2.3. 男女の一般的な配偶

- 基本的には、どちらも長期配偶志向 (Buss & Schmitt, 1993) ⇔ どちらも短期配偶をすることがある
 - 男性は、誠実で長期的に資源供給するというを示さないと、女性はそもそも生殖行動すらさせない
 - つまり、男性だけの視点で見れば、子供の数を多くするという有利な戦略 (短期配偶) は、女性との相互作用的に考えると一概に有利とは言えない
 - 男性は女性に誠実であることをアピールし、結局、男女とも子供の数を多くするのではなく少数の子供を確実に生存させる戦略をとる (長期配偶)
- ⇒ では、男女とも短期配偶をしないのか? — No!

2.4. 男と女のだましあい (Buss, 1994 狩野, 2000)

- 男女とも短期配偶を行うことは勿論ある
 - 男性の場合: 有利な戦略の一つだから
 - 女性の場合: 良い遺伝子を得る為 (Carter et al., 2014)

2.5. どんな女性が短期配偶戦略で求められるか?

- 生殖能力の高い女性
 - 子供が正常に産まれる可能性ができるだけ高くなるように女性を選択する
 - ただし、男性は相手の女性から産まれてきた子供が 100%自分の子供だという確信は持てない (父性不確実性)
 - 現段階で妊娠しておらず、かつ健康で性的に成熟している女性を選ぶことが必要
 - ウエストのくびれなどの女性的特徴や若さなどは、現在妊娠していないことや、女性の生殖能力が高いことを反映している (Singh, 1993; Zaadstra, 1993)
 - 生殖能力の高さは、女性ホルモンに由来する (Singh, 1993)
 - これらの女性的特徴や若さを魅力的であると判断する個体は、自身の子供を産んでもらうことができ、その子供がさらに子孫を残すことによって、“女性的身体的特徴や若さを魅力的であると判断するメカニズム” が受け継がれてきた
- ⇒ 特に、魅力的な (女性的な) 女性と短期配偶をしようとする

2.6. どんな男性が短期配偶戦略で求められるか?

- 良い遺伝子を持つ男性
 - 筋肉質などの男性的な特徴は、生殖能力が高い、健康、強いといった、“良い遺伝子”を持つことを反映している (Frederick & Haselton, 2007)
 - これらの男性的特徴を魅力的であると判断する個体は、良い遺伝子を持つ子供を産むことができ、その子供がさらに子孫を残すことによって、“男性的身体的特徴を魅力的であると判断するメカニズム”が受け継がれてきた
 - これらは、主に男性ホルモンに由来すると考えられる (Frederick & Haselton, 2007)
 - 男性ホルモンの負の側面として、攻撃性などがある
 - 長期配偶した場合に、攻撃が配偶者自身に向けられる可能性がある
 - ⇒ 男性らしさが高いと基本的には敬遠される
 - ⇔ 短期配偶だけならば、パーソナリティや誠実性など関係なく、女性にとってもメリット!
 - 誠実な男性と長期配偶し、魅力的な男性とは短期配偶
- ⇒ 魅力的な (男性的な) 男性と短期配偶戦略をする

3. 本調査

3.1. 仮説

- 外見的に魅力的だと短期配偶の需要がある
 - 短期配偶するかどうかは、その個体のパーソナリティによる判断
 - サイコパシー傾向は、短期配偶戦略志向
 - 短期配偶することに罪悪感はない
 - ばれないように嘘を吐くこともできる
 - 短期配偶にはメリットがあるから、できるならやれた方がいい
 - 外見的な魅力があると、サイコパシー傾向は有利
 - サイコパシー傾向が短期配偶戦略に特化したパーソナリティならば、サイコパシー傾向から外見の魅力が予測できるのではないか?
- ⇒ 男女とも、サイコパシー傾向が高いと外見的に魅力的であると判断される

3.2. 方法

- 参加者
 - ターゲット：大学生 70 名 (男性 37 名, 女性 33 名, $M_{age} = 19.3, SD = 1.18$)
 - 評価者：大学院生 13 名 (男性 5 名, 女性 8 名, $M_{age} = 24.7, SD = 2.40$)
- 測定
 - PSPS 日本語版 (大隅他, 2007) : 21 項目, 7 件法
 - 一次性サイコパシー (PP; $\alpha = .77$) : e.g., 人の気持ちを操ることは楽しい, 自分のためということは私の最優先事項である
 - 二次性サイコパシー (SP; $\alpha = .75$) : e.g., しばしば退屈する, 自分が始めた

作業でもすぐ関心を失ってしまう

一 外見からの印象尺度：20項目，7件法

- 関係望ましさ ($\alpha = .89$) : e.g., 友達になりたい, 交際したい
- 紳士/淑女 ($\alpha = .87$) : e.g., 頭がいい, 上品な, 誠実な
- 親しみやすさ ($\alpha = .78$) : かわいい, 親しみのある, 若々しい
- 活動性 ($\alpha = .77$) : 自身にあふれた, 活動的な
- セクシー ($\alpha = .76$) : セクシー, 美しい
- 男性らしさ ($\alpha = .76$) : 男らしい, 筋肉質 (男性のみ)
- 女性らしさ ($\alpha = .60$) : 女らしい, スタイルがいい (女性のみ)

※セクシーさが特に外見的魅力を反映

※男性らしさ, 女性らしさも同様に性別ごとの外見的魅力を反映

※関係望ましさも重要な変数

□ 手続き

- 一 ターゲットは PSPS 日本語版に回答し, その後写真撮影 (バストアップ)
- 一 評価者がターゲットの写真を外見からの印象尺度で評価

□ 分析

- 一 独立変数 : PP, SP, ターゲット性別, PP×ターゲット性別, SP×ターゲット性別
- 一 従属変数 : 外見からの印象尺度の各尺度得点 (平均得点) ※男性らしさ, 女性らしさに関しては独立変数に性別は含まない
- 一 評価者をレベル 2 としたマルチレベルモデル

※評価者性別の効果は有意ではないのでプール

3.3. 結果

- 全体的に, サイコパシー傾向と外見的魅力の関係は, 女性で正の関連 (仮説支持), 男性で負の関連 (仮説と逆の結果) となった (Table 1; グラフは Appendix 参照)

Table 1. 回帰分析の結果。

Fixed Effect	紳士/淑女		親しみやすさ		活動性		セクシー		関係望ましさ		男性らしさ		女性らしさ	
	推定値	(SE)	推定値	(SE)	推定値	(SE)	推定値	(SE)	推定値	(SE)	推定値	(SE)	推定値	(SE)
切片	4.40	(0.14)***	4.25	(0.13)***	4.34	(0.09)***	3.50	(0.16)***	4.17	(0.17)***	4.19	(0.17)***	4.39	(0.16)***
PP	-0.08	(0.05) [†]	0.00	(0.07)	-0.09	(0.07)	0.08	(0.07)	-0.11	(0.07)	-0.14	(0.07) [*]	0.28	(0.11)**
SP	-0.04	(0.03)	0.01	(0.04)	-0.10	(0.04) [*]	0.02	(0.04)	0.00	(0.05)	-0.29	(0.05)***	0.07	(0.06)
ターゲット性別	-0.42	(0.06)***	-0.54	(0.08)***	0.15	(0.08) [†]	-0.64	(0.08)***	-0.55	(0.16)**	-	-	-	-
PP×ターゲット性別	0.04	(0.09)	0.03	(0.13)	0.25	(0.14) [†]	-0.39	(0.13)**	-0.06	(0.14)	-	-	-	-
SP×ターゲット性別	-0.20	(0.06)***	-0.48	(0.08)***	-0.29	(0.08)***	-0.09	(0.08)	-0.48	(0.09)***	-	-	-	-
Simple Slope														
PP@男性ターゲット	-	-	-	-	0.04	(0.07)	-0.12	(0.07) [†]	-	-	-	-	-	-
PP@女性ターゲット	-	-	-	-	-0.21	(0.12) [†]	0.27	(0.11) [*]	-	-	-	-	-	-
SP@男性ターゲット	-0.14	(0.04)***	-0.23	(0.05)***	0.25	(0.06)***	-	-	-0.24	(0.06)***	-	-	-	-
SP@女性ターゲット	0.06	(0.04)	0.25	(0.06)***	0.04	(0.06)	-	-	0.24	(0.06)***	-	-	-	-
Random Effect														
切片	0.24	(0.49)	0.20	(0.45)	0.09	(0.30)	0.33	(0.57)	0.37	(0.61)	0.32	(0.57)	0.28	(0.53)
PP	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	(0.09)	-	-	-	-
SP	-	-	-	-	-	-	-	-	0.00	(0.06)	-	-	-	-
ターゲット性別	-	-	-	-	-	-	-	-	0.23	(0.48)	-	-	-	-
残差	0.68	(0.82)	1.29	(1.13)	1.43	(1.19)	1.30	(1.14)	1.49	(1.22)	1.34	(1.16)	1.17	(1.08)

Note. すべての変数は集団平均セントラリングされている。

Note. 評価者性別の効果は有意でないためプールした。

3.4. 考察

- 結果のまとめ
 - 男性：サイコパシー傾向が高いほど魅力的ではないむしろ、サイコパシー傾向が高いほど外見的魅力は低い
 - 女性：サイコパシー傾向が高いほど外見的に魅力的
- 進化的仮説との矛盾
 - 女性が短期配偶するメリットは限定的 ⇔ 男性が短期配偶するのは概括的
 - のはずだが、男性で魅力とサイコパシー傾向に負の関連が示されるのは何故?
 - 男性らしさが高い → 敬遠として魅力的ではない、という判断の可能性
 - ⇔ But, サイコパシー傾向と男性らしさも負の関連
- 問題点
 - 実際の短期配偶に関する項目が測定されていない
 - 性関係を持った人数などの行動変数、短期配偶戦略の志向性など
 - 手続き的問題
 - 評価者の一般性、魅力評価項目の一般性など
- 今後の課題
 - 男性で仮説と逆の結果が何故示されたのか?
 - 男性でサイコパシー傾向が高いほど魅力的ではないと判断される理由や要因は?
 - サイコパシー傾向の高い男性が、外見的に魅力的ではないにも関わらず短期配偶戦略をとれる理由は?
 - コミュニケーションによって、誠実だと思込ませることができる?(サイコパシー傾向の特徴の一つ)

4. 知見のまとめ

- 男性：サイコパシー傾向が高いほど外見的に魅力的ではない
- 女性：サイコパシー傾向が高いほど外見的に魅力的である

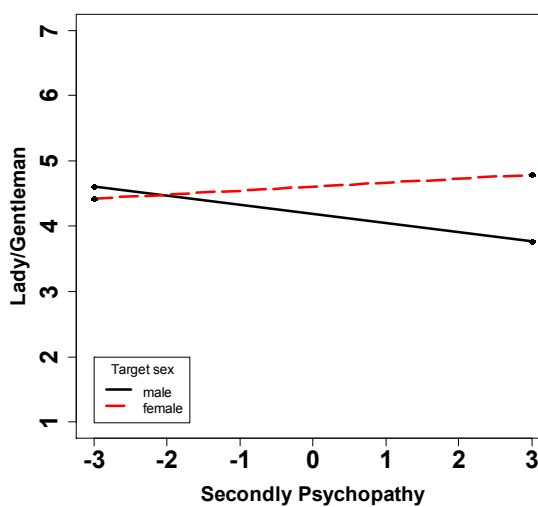
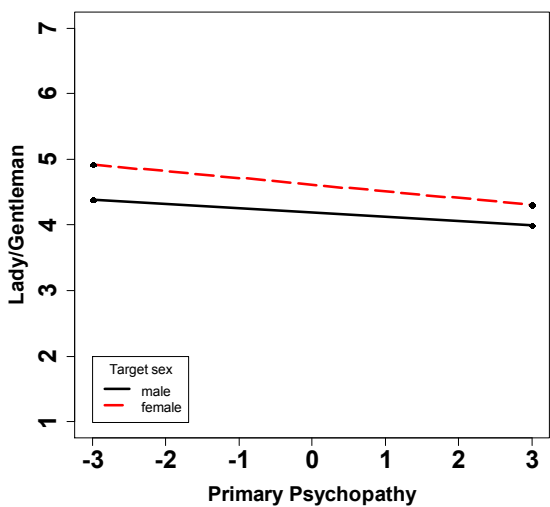
引用文献

- Buss, D. M. (1989). Sex differences in human mate preferences: Evolutionary hypotheses tested in 37 cultures. *Behavioral and Brain Sciences*, 12, 1-49.
- Buss, D. M. (1994). *The evolution of desire: Strategies of human mating*. New York, NY, US: Basic Books. (バス, D. M. 狩野 秀之 (訳) (2000). 女と男のたましあい——ヒトの性行動の進化—— 草思社)
- Buss, D. M., & Schmitt, D. P. (1993). Sexual strategies theory: An evolutionary perspective on human mating. *Psychological Review*, 100, 204-232.
- Carter, G. L., Campbell, A. C., & Muncer, S. (2014). The Dark Triad: Beyond a 'male' mating strategy. *Personality and Individual Differences*, 56, 159-164. doi:10.1016/j.paid.2013.09.001
- Frederick, D. A., & Haselton, M. G. (2007). Why Is Muscularity Sexy? Tests of the Fitness Indicator Hypothesis. *Personality and Psychology Bulletin*, 33, 1167-1183.
- Fulton, J. J., Marcus, D. K., & Payne, K. T. (2010). Psychopathic personality traits and risky sexual behavior in college students. *Personality and Individual Differences*, 49, 29-33. doi:10.1016/j.paid.2010.02.035
- Furnham, A., Richards, S. C., & Paulhus, D. L. (2013). The Dark Triad of personality: A 10 years review. *Social and Personality Psychology Compass*, 7, 199-216. doi:10.1111/spc3.12018

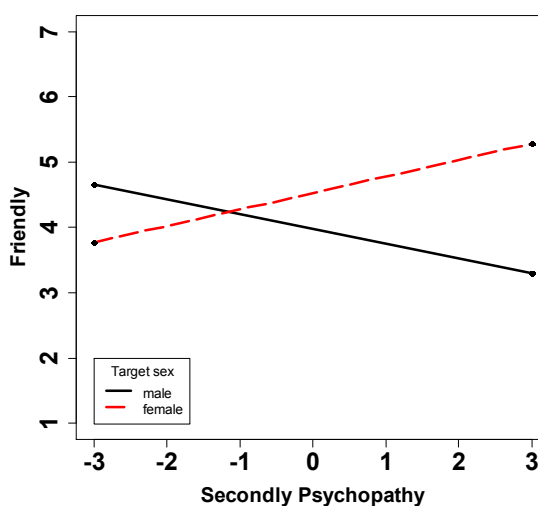
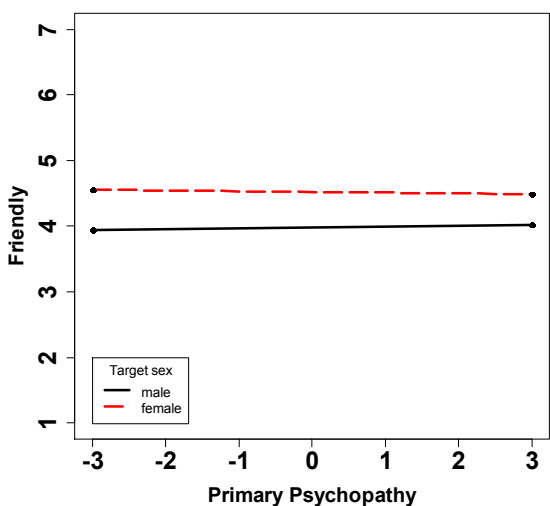
- Hare, R. D., & Neumann, C. S. (2005). Structural models of psychopathy. *Current psychiatry reports*, 7, 57-64.
- Holtzman, N. S., & Strube, M. J. (2012). People with dark personalities tend to create a physically attractive veneer. *Social Psychological and Personality Science*, 4, 461-467.
- Jonason & Kavanagh (2010). The dark of love: Love style and the Dark Triad. *Personality and Individual Differences*, 49, 606-610.
- Jonason, P. K., Li, N. P., & Buss, D. M. (2010). The costs and benefits of the Dark Triad: Implications for mate poaching and mate retention tactics. *Personality and Individual Differences*, 48, 373-378.
- Jonason, P. K., Li, N. P., Webster, G. W., & Schmitt, D. P. (2009). The Dark Triad: Facilitating short-term mating in men. *European Journal of Personality*, 23, 5-18.
- 大隅尚弘・大平英樹 (2010). 心の闇の側面——サイコパシーにおける感情の機能低下—— 感情心理学研究, 18, 2-14.
- 大隅尚弘・金山範明・杉浦義典・大平英樹 (2007). 日本語版一次性・二次性サイコパシー尺度の信頼性と妥当性の検討 パーソナリティ研究, 16, 117-120.
- Singh, D. (1993). Adaptive significance of female physical attractiveness: Role of waist-to-hip ratio. *Journal of Personality and Social Psychology*, 65, 293-307.
- Visser et al. (2010). Psychopathy, sexual behavior, and esteem: It's different for girls. *Personality and Individual Differences*, 48, 833-838.
- Zaadstra, B. M., Seidell, J. C., Van Noord, P. A. H., te Velde, E. R., Habbema, J. D. F., Vrieswijk, B., & Karbaat, J. (1993). Fat and female fecundity: Prospective study of effect of body fat distribution on conception rates. *British Medical Journal*, 306, 484-487.

Appendix A. サイコパシー傾向と各印象との関連のグラフ

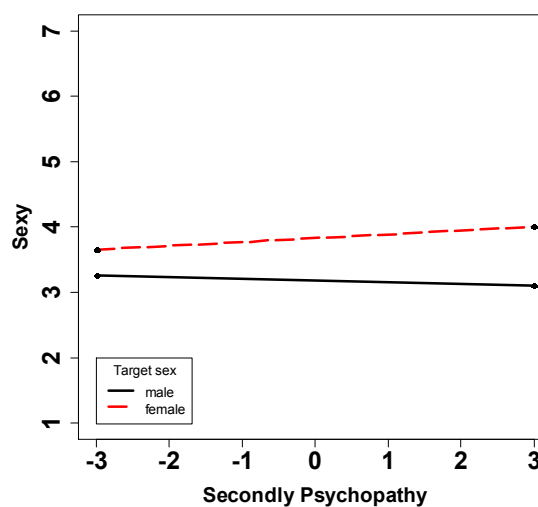
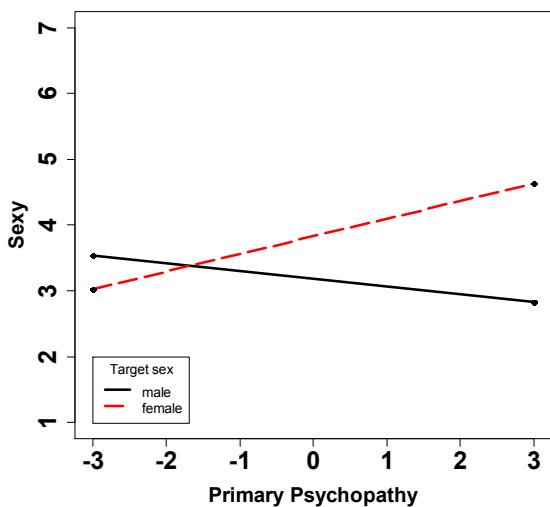
紳士/淑女



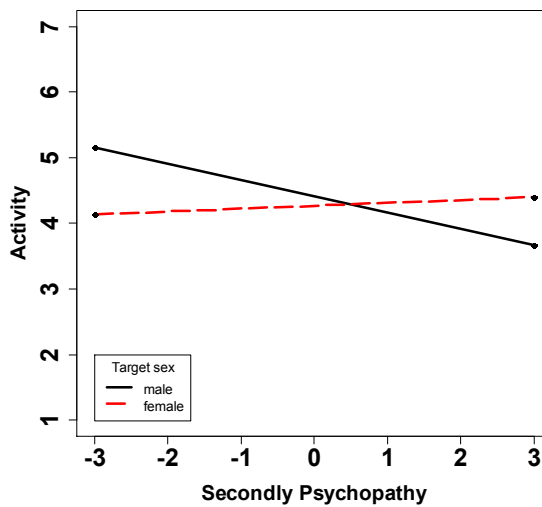
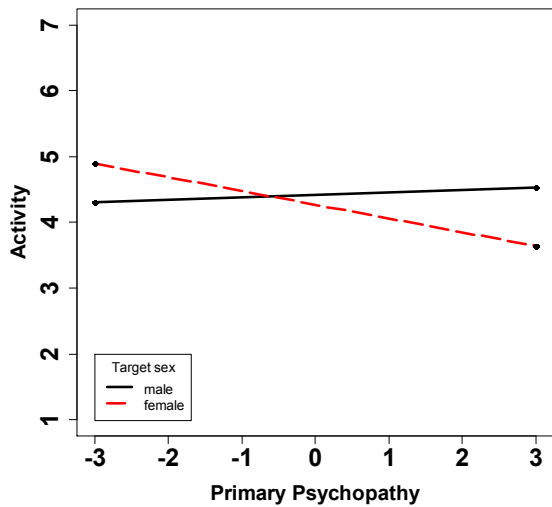
親しみやすさ



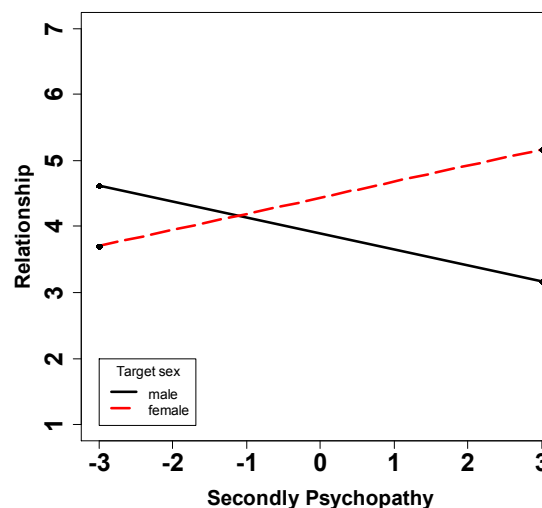
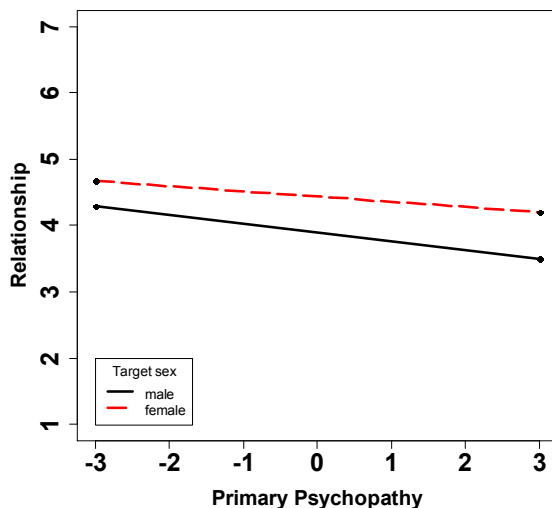
セクシー



活動性



関係望ましさ



Appendix B. サイコパシー傾向の記述統計と性差(ターゲット参加者)

	全体 (SD)	男性 (SD)	女性 (SD)	t値	p値
Primary Psychopathy	3.64 (0.66)	3.71 (0.80)	3.57 (0.46)	0.96	.340
Secondly Psychopathy	4.17 (0.98)	4.17 (1.01)	4.17 (0.95)	0.00	1.000